

北海道滝川高等学校	全日制課程	学科	普通科
-----------	-------	----	-----

教科	科目・標準単位数	学年 類型	1 年			2 年			3 年			計
外国語	英語コミュニケーションⅠ	3	3								3	
	英語コミュニケーションⅡ	4		4							4	
	英語コミュニケーションⅢ	4						4			4	
	論理・表現Ⅰ	2	2								2	
	論理・表現Ⅱ	2		2							2	
	論理・表現Ⅲ	2						2			2	
	○実用英語	2			2						0~2	
	○時事英語	2					2				0~2	
家庭	家庭基礎	2		2							2	
	家庭総合	4										
情報	情報Ⅰ	2	2								2	
	情報Ⅱ	2										
理数	理数探究基礎	1										
	理数探究	2~5										
音楽	ソルフェージュ	2~4		2		2					0~2	
	○発展ソルフェージュ	2					2				0~2	
SSH	○総合探究Ⅰ	1	1								1	
	○総合探究Ⅱ	1		1							1	
	○総合探究Ⅲ	1						1			1	
	○グローバルサイエンス研究	2					2				0~2	
	○環境・防災特別探究A	1	1	1							0~1	
	○環境・防災特別探究B	1	1	1							0~1	
○教員基礎	○教員基礎	1		1							0~1	
	○教員基礎探究	1				1					0~1	
各学科に共通する各教科・科目の計			30	28~30		25~29					83~89	
主として専門学科において開設される各教科・科目の計			0	0~2		0~2					0~4	
学校設定教科に関する科目の計			1~3	1~4		1~4					3~9	
総合的な探究の時間			3~6	0	0	0					0	
合計			31~33	31~34		26~31					88~96	
特別活動	ホームルーム活動		1	1		1					3	
教育課程に係るその他の事項												
卒業までに修得させる単位数	74	単位	卒業に必要な履修と修得の単位数			○ 1 分離している 2 分離していない						
学期の区分	○ 1 1 2 2	3学期制 2学期制	学期の区分ごとの単位の修得の認定			○ 1 実施している 2 実施していない						
1 単位時間の弾力化	○ 1 2 3 3 4 4	標準の50分を1単位時間として実施する。 標準以外の単位時間を学校が設定して実施する。 [1日の授業時間を()分×()時間で実施] いくつかの単位時間を組み合わせて実施する。 [1週のうち()日間で、1日当たり()分×()時間で実施]と、[1週のうち()日間で、1日当たり()分×()時間で実施]を組み合わせて実施する。 その他()										
学校外における学修の単位認定	○ 1 2	実施している(①・④) 実施していない										
総合的な探究の時間の実施方法	○ 1 2	週時程に位置付けて実施する。 週時程に位置付けず、年間を通して又は特定の期間に実施する。										
備考	○必修科目について ・「音楽Ⅰ」「美術Ⅰ」「書道Ⅰ」のいずれかを履修すること。 ○SSH教育課程の特例により、 ・「数学Ⅰ」を「SS数学Ⅰ」、「数学A」を「SS数学A」として実施する。 ・「数学Ⅱ」を「SS数学Ⅱ」、「数学B」を「SS数学B」として実施する。 ・「総合的な探究の時間(3単位)」を「総合探究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」で代替する。 ○2年「論理国語」「国語表現」を選択した場合は、それぞれ3年で連続履修とする。 ○2年「物理基礎」または「地学基礎」のどちらかを履修することとし、履修時期は「物理基礎」「地学基礎」共に前期とする。 ○2年「SS地理探究α」「SS日本史探究α」「SS世界史探究α」「SS物理α」「SS生物α」は後期履修とする。 ○3年「発展ソルフェージュ」は2年「ソルフェージュ」を履修した者に限る。 ○3年「古典探究(2単位)」「古典探究(3単位)」のいずれかを履修すること。 ○2年「ソルフェージュ」、3年「ソルフェージュ」は連続して履修できない。 ○「環境・防災特別探究B」は「環境・防災特別探究A」を履修した者に限る。 ○1年「環境・防災特別探究A」、2年「環境・防災特別探究A」は連続して履修できない。 ○1年「環境・防災特別探究B」、2年「環境・防災特別探究B」は連続して履修できない。 ○教科「教員基礎」は北海道高等学校「みらいの教員育成プログラム」による。 ○3年「教員基礎探究」は2年「教員基礎」を履修した者に限る。 ※4単位選択群の履修については任意である。											

注 用紙の大きさは、日本産業規格A列4番縦型とする。